

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

#### 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

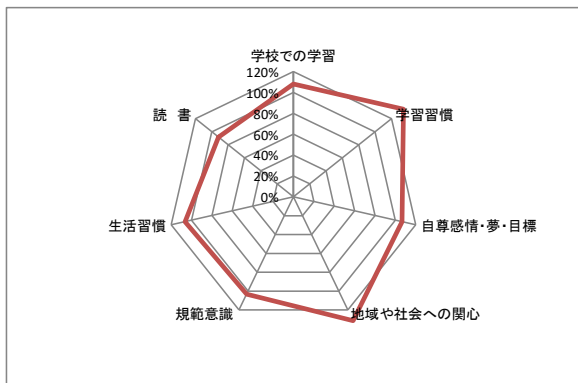
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 8.8   | 63    | 11.0  | 69    |
| 全国     | 9.1   | 65    | 11.2  | 70    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |  |                       |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均正答率を下回っている。領域では、(思考力・判断力・表現力等)の「書くこと」の正答率が上がったが、「話すこと・聞くこと」の正答率が低かった。<br>・全ての問題で無回答率は、全国平均より低く、自分の考えを回答しようとする意識が高い。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」についての正答率が高く、「書くこと」の力が定着してきている。   |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 「資料を用いた目的を理解する」についてや「目的や意図に応じ、資料を使って話す」について課題がみられた。  |                       |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均正答率を下回っている。「測定」領域は他の領域より比較的正答率が高かった。「図形」領域は、正答率が低く課題が残る。<br>・ほとんどの問題で無回答率は、0%もしくは全国平均よりも低い。                         | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 「条件に合う時刻を求めることができる」問題や「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」問題、「棒グラフから、数量を読み取ることができる」問題は、正答率が高かった。                                     |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 「三角形の面積の求め方について理解している」問題や「図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」問題、「場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる」問題の正答率が低かった。                     |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析   |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で計画を立てて勉強することや、家庭学習時間を確保することができていることから、進んで学習に取り組む姿勢ができている。</li> <li>・地域や社会に関心が高い児童が非常に多く、自分たちが大切に、大切にされていると感じることがうかがえる。</li> <li>・「いじめは、どんな理由があってもいけない」という規範意識が育っている。</li> <li>・自己肯定感があり、夢や目標をもって生活できている。今後も自分のよさや頑張りを自覚させる取組を充実させる。</li> <li>・読書活動に関しては、本を読む児童は増えてきたが、読書の時間は全国平均を下回っている。今後も本に親しむ取組を継続していく。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・言語力を高める取組として、読書の時間の確保や各教科で資料を使って自分の考えを伝える場面を多く取り入れる。
- ・今後も話し合い活動などを通して、自分の考えを整理しながら表現していく学習を進めていく。
- ・図形領域等の系統性を再確認し、授業の中で振り返りを交えながら、学習を進めていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭や地域と密に連絡を取り合い、保護者との共通理解を図る。
- ・朝自習や子ども読書の日等の活用や家庭への啓発を通して、持続的な読書習慣の定着を進めていく。
- ・スマホ等を安全に使用するための学習や外部講師を招聘しての学習会を実施する等の啓発活動を今後も継続する。